

令和6年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

今年度の重点目標として、学習活動の項目から「地域資源・人材を活用した学習活動の充実」、学校生活の項目から「災害や安全に対する意識を高める防災教育の充実」の2項目を挙げた。重点目標の評価については、「学校アクションプラン」に記載のとおり、達成度及び具体的な取組状況から総合的に判断して、2項目とも達成できたと考えており、学校評議員からも同様の意見を得た。

学校評議員会では、地域資源・人材の活用に関する重点目標において、児童生徒が求めることと地域資源・人材とをどう絡めるかが課題であるとの声が聞かれたが、計画的に設定された学習の中で児童生徒の意思を尊重しながら非日常的な活動を体験できるようにすることの成果が確認された。防災教育に関する重点目標においては、日頃からの訓練が実際の場面で役立った例があるという話から、訓練を重ねることで自分の命を守るための行動の定着を図ることが大切であることや、隣接施設である砺波学園だけでなく家庭との連携も必要であることなどの意見をいただいた。

7 次年度へ向けての課題と方策

今年度の学校総合評価の結果に基づき、本校の現状と課題について更に検討し、次年度へのよりよい方向性の模索と、目標の達成及び内容の向上を目指す。

- ・地域資源・人材の活用は、校内の学習活動を拡大し、補う役割が期待できることから、引き続き、地域社会の協力を得ながら児童生徒が多様な経験を積むことができるよう、指導内容・方法の工夫を計画的・組織的に行っていきたいと考える。
- ・防災教育について、一層の充実を図るため、学校での取組の共有や防災に関する情報の共有など、砺波学園、家庭、地域との連携を考慮した取組が必要であると考えます。
- ・学校アクションプランを含む様々な教育活動が、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じたものとなるよう教育環境の整備に努める必要がある。また、児童生徒がそれぞれの目標を達成できる学校にするために、家庭や砺波学園及び地域と共に歩む学校として更に校内体制を整え、教職員が協力して教育活動を推進していく。

8 学校アクションプラン

令和6年度 となみ東支援学校アクションプラン1 ー教務部ー	
重点項目	学習活動
重点課題	地域資源・人材を活用した学習活動の充実
現 状	本校の児童生徒は、砺波学園に入園し、多くが長期間の療育を受けている。そのため、生活経験が乏しく、日常生活の中で未経験な事柄が多くある。学校教育目標である「自分のもつ力を発揮し、豊かに生活する人間を育成する」の具現化に向けて、地域社会の協力を得ながら教育活動の充実を図り、豊かな社会生活を送る素地を養うことが必要であると思われる。
達成目標	①地域資源（越中三助焼）の活用 地域の産業や陶芸に関する知識の習得と活動実践の場の設定
	②地域人材（書人会師範）の活用 書道に関する知識の習得と活動実践の場の設定
方 策	①小中学部児童生徒一人につき直接指導3回
	②小学部高学年児童及び中学部生徒一人につき直接指導2回
方 策	<p>① 地域資源（越中三助焼）の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の教材研究のために講師を招いて、越中三助焼や陶芸について、また、児童生徒の指導方法について研修する。 ・児童生徒が、図画工作・美術の時間を中心に、越中三助焼や陶芸について学習したりオープン陶土を使って制作活動を行ったりする。また、講師より指導を受け、教材研究時に作成された見本用の作品等を参考に越中三助焼の制作活動を行う。 <p>② 地域人材（書人会師範）の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が、国語の時間に講師より指導を受け、毛筆書写における道具の正しい使い方等について学習したり書字活動を行ったりする。 <p>○児童生徒が主体的に学習に取り組んだり学ぶことの楽しさを実感したりできるよう指導・支援する。</p>
達成度	達成率100%
具体的な取組状況	① 地域資源(越中三助焼)の活用：小中学部児童生徒一人につき直接指導3回
	② 地域人材(書人会師範)の活用：小学部高学年児童及び中学部生徒一人につき直接指導2回
具体的な取組状況	<p>① 6月から7月にかけて3回にわたり、福山地区に窯元を構える越中三助焼の谷口先生（五代目）と竹鼻先生（六代目）に来校いただき、児童生徒へ「手びねり」「絵付け」の指導をしていただいた。一人一人の手が加わった皿や湯呑、コーヒーカップ、箸置きなど数多くの作品が完成し、どちらの活動でも児童生徒が興味をもって意欲的に取り組む姿が見られた。</p> <p>② 国語科の授業の一環として、砺波市在住の島先生（書人会師範）をお招きし、書道の指導をしていただいた。書き初めの制作では、より良い作品になるよう「とめ」「はね」など書字のポイントや文字のバランスなどについて丁寧な指導を受けることができた。共同作品制作では、島先生直筆の「桜梅桃李」の文字を囲むように一人一人が「自分」を表す一文字を書き、中学部が心をつなげた作品を仕上げることができた。</p>
評 価	A 地域社会の協力を得ながら、児童生徒が主体的に学習に取り組んだり学ぶことの楽しさを実感したりできる充実した学習活動を行うことができ、豊かな社会生活を送る素地を養う機会になった。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・非日常的な体験をする機会はとても貴重だと思う。 ・児童生徒の意思を尊重しながら、児童生徒が自分で決めて最後まで成し遂げる経験を積むことができるようにすることは、自己肯定感を高めることにつながると思われる。
次年度へ向けての課題	外部の専門家による指導によって、知識や技能の習得を図ることだけでなく、学ぶ意欲を高めることもできた。今後も、児童生徒が主体的に学習に取り組むことができるよう、地域の自治会や施設などから情報を得て、地域資源・人材の更なる活用を図っていきたい。また、児童生徒の思いを大切にする支援について改めて見直しをしつつ、児童生徒が多様な経験を積むことができるよう、学習活動を工夫していきたい。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和6年度	となみ東支援学校アクションプラン2 ー生活指導部ー		
重点項目	学校生活		
重点課題	災害や安全に対する意識を高める防災教育の充実		
現 状	<p>児童生徒は、学校では年間3回、学園では年間12回の避難訓練を行っており、指示に従って避難場所に避難することができ、避難時の約束、避難時に必要な行動について基礎的な知識をもつ者もいる。令和6年の元日には大きな揺れとその恐ろしさを体験し、危険から身を守ることに不安を感じた者もいたと思われる。</p> <p>今後は、防災用品や災害用備蓄品を実際に使用したり、様々な状況における避難の仕方について考えたりするなどして、災害時に備えてより実践的な力が身に付くよう指導・支援していく必要がある。</p>		
達成目標	①防災用品や災害用備蓄品について調べたり使用したりする体験を中心とした活動(生活単元学習)	②災害から命を守るために必要なことについて考え、実践することを中心とした活動(生活単元学習・特別活動)	③災害を想定した環境設定をし、防災用品を用いて行う避難訓練
	小中学部 6回以上	小中学部 6回以上	年間 2回
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 学校にある防災設備や防災用品、災害用備蓄品について調べたり、使用したりして、災害時に役立つものを知ったり実体験したりする。 災害時に自分がいる場所や周囲の状況によって避難の仕方を考えたり、校内で実践したりして、自分の命を守るための行動について理解する。 授業の振り返り活動、避難訓練後のアンケートを活用してどのような力が身に付いたか評価する。 ヘルメットや防災頭巾をかぶって避難することや避難経路が倒壊物で通ることができないなど、災害時に想定される状況に即した避難訓練を行う。 		
達成度	達成率 100%	達成率 100%	達成率 100%
	小中学部合わせて13回実施	小中学部合わせて15回実施	年間2回実施
具体的な取組状況	<p>防災教育について、①知る(知識)②準備する③訓練するの3つの柱を設け、それに基づく3つの達成目標を掲げて実践した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の身近にある防災設備や、学校内に危険箇所がないかを調べた。また、保存水や非常食を実食したり、避難所体験をしたりする活動を通して、災害時の避難方法を確認し、災害時の状況について知ることができた。 地震が起こった時は机の下に隠れることやヘルメット等で頭を守ることを確認し、基本的な動作の習得に努めた。また、災害時に必要な備えについて調べたり、地震体験をしたりする活動を通して、自分事として災害に向き合い、備えることの大切さを学ぶことができた。 避難訓練では、ヘルメットや防災頭巾で頭を保護してグラウンドまで避難した。また、災害時には、想定外の状況が起こり得ることを知り、自分の命を守るために主体的に考え、行動しようとする姿が見られた。 		
評 価	A	災害から自分の命を守るための行動や準備について知ることや体験・訓練したことを通して災害に備える力が高まった。	
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒が災害を自分事として考えて、主体的に活動していた点がよかった。活動を振り返って学びを深めていた点もよかった。 学園でも、児童生徒一人一人のことをこれまで以上に考えて訓練を行うことが課題である。家庭帰省時に災害が起こることもあると思われるので、保護者との連携についても考えていくことが大切である。 		
次年度へ向けての課題	<p>防災教育については、今年度の取組でよしとするのではなく、児童生徒一人一人が生涯にわたって学んでいく能動的な態度を身に付けることができるよう支援していくことが必要である。また、児童生徒が災害から自分の命を守ることができるよう、家庭や地域との連携についても考えていくことが大切である。</p>		

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)